

恭賀新年

新しい年をお迎えして皆様には喜ばしいことと存じます。二〇二二年が開けました。今年はどうな年でありましょうか。

私は、昭和生まれです。昭和、平成、令和と時代は変化してきました。

その間、最先端テクノロジーの進歩はとどまることをしない。一方、気象変動による異常気象やエネルギー問題、少子高齢化、人口減少、地域コミュニティの希薄化など、現代社会の課題は、山積みされています。

今こそ、先人の積み重ねられた智慧と行動に学び、後生の人々が、「生まれてきてよかったなあ」と感じてもらえるように人々と手を携えながら、この世の理想郷作りに精進していきたいと考えています



人々の和合を念じる

人々は、仏の声を聞いて皆仏を念じ、教えに思い心を和合させる不思議な力をもっている。例えば、さだまさしがギターを片手に音楽を奏でると人々がやってきて音楽に酔いしれる。そして人々を向上させる事ができるというのはすごく役に立っていると思いませんか。いわゆる、教えを聞く喜びを感じて、新たな生き方をにする。しかしながら、私たちは様々な願



埼玉の信者さんがドローンで撮影されました

いや思いを抱いて生きています。その願いや思いの通りにものごが進みません。ですから、いくらかで強く思ったところで現実は何一つ変わらな。自分はこんなに思いついてるのに、まったく実現しないじゃないかと嘆く人がいるでしょう。逆にいやいや願いをもち続けているといつかきつかなえてくれることがあるでしょう。スポーツ選手がイメージトレーニングによって、成績をあげて成功する人がいます。自分だけがよかつたらと言う思いをなくして、仲間と一緒にその願いが叶えられることがあります。つまり、人と和合することで良い智慧が生まれ、成就感の達成につながるものです。とにかく少なくとも私たちの内面と行動は、大きく関わっています。思いは行いを生み出し、行いは思いを作り出すのです。あきらめずにいることが成功させるので生み出し、行いは思いを作るものです。

日本人の忘れ物

この美しい国で、はぐくまれた宝が自然であります。遠い祖先が積み上げられたきた大木は清水を作り出し、人々の生きる飲み水とされて、私の命を守ってくれました。自然の大いなる力で豊かな暮らしやすいまちを作り出してくれました。そんな自然には、花と語り、鳥と遊び、風を楽ししみ、月と戯れ、その花鳥風月の命を見つけてくれました。そこには自然の神が宿るといふ信仰を導いてくれました。それをお釈迦様は「草木国土 悉皆成仏」の言葉を残されたのであります。自然への畏怖と感謝の心を植え付けられました。ところが「文明の進歩で人間の能力を過信するようになり、不信心の心が生まれて、大きな災い起こるようになりました。今一度、自然への畏怖と感謝の心を忘れずに生きたいものです。

口で言うだけじゃなく

自分でやってみよう

学校や書物で仕入れた知識、ためになる話をいっぱい知っていても、自分の生活のなかで生かさないと意味がないのです。

口で言うだけでなく、自分でやってみて、うまくいかなかった事を語り継いでいけば、学んだ甲斐があると言います。

いいことを聞いたならば、惜しみなく人に伝える。これこそ仏の教えなのであります。

お経には、生きるための智慧がたくさん書かれています。これを語らずしてではもったいない。

ためになることをいくらたくさん語ってもそれを実行しないならば、その人は怠け者だ

・ ・ ・ (ダンマバダより)

「法華経」分別功德品の教え

世尊は、弥勒菩薩に告げられました。

阿逸多よ。私が、如来の寿命がはるかに長いということを説いた時に、六百八十万億那由多のガンジス河の砂の数に等しい数の人々たちがいて、あらゆるものは永遠不滅であるという真理を体得した。またその千倍の数の菩薩たちが、聞いたことを忘れずに記憶する能力を獲得した。そして菩薩たちは楽しみながら滞ることなく説く弁舌の能力を獲得した。

多くの菩薩たちが大いなる法の利益を聞いたとき、虚空から曼荼羅の花と摩訶曼荼羅の花が雨のように降り、多くの宝樹の獅子座に座しているお釈迦様にふりかかる。それは天上界であり梅檀の香り、沈香の香り、天上の太鼓が鳴り、その妙なる音声が深遠に響き渡っている。美しい装身具、真珠で八方に飾られている。

凡夫の私たちは、仏様の至るには生きがいを知ることであり、それが大功德であると説いています。

その生きがいは、正しい信仰をもち、努力しさえすれば、いつかはお釈迦様のように生きる力が無限に湧いてくる。その仏様の境地に達するには並大抵の修行では得られない。人間は八度生まれ変わるといふ。そうして、ようやく菩薩に達するのです。その修行中に光明がさ

し、すべての人生には生きがいを見いだし、楽しいものになるのです。

ただお金を儲けたり、損したり、恋愛したり、失恋したり、高い地位を得たかと思うと、ちよつとの失敗でそれを失う・・・こうして空しい喜びや苦しみを繰り返す。その瞬間なんとなく充実しているように感じても、死ぬ間際に、我執に踊らされ、あくせくしたに過ぎない事がわかり、言い知れぬ空虚感を味わう。そんなとき人生を知らぬ信仰という一本の強い信念持ったならば、浮きつ沈みながらも、仏の境地に一歩一歩上っていく事ができる。どんな苦しい生涯でも、楽しく生きていくことができ、楽しく死んでいくことができるのです。

私たちの寿命は、この世で終わりになるのはありません。次の世もまたその次の世も、ただ、もう日常生活に起こる様々な事件に喜びと悲しみを繰り返すので

す。真の信仰を持ち得たならば、常に仏の境地に行区事ができる。いつも希望に満ち、充実した生きかたに目覚めるものです。これこそ、真の信仰者のみを得られる大功德というものです。



びんずる会の活動に参加しませんか

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様のご参加をお待ちします。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九

天台真盛宗玉泉寺 木村哲基

携帯 〇九〇―三七〇八―七二〇六

電話 〇七四〇―三二―〇七九一

ファックス 〇七七―五〇二―二二七九

メール info@gyokusenji.com

ホームページ 滋賀高島石仏の玉泉寺

ブログ 玉泉寺住職日記